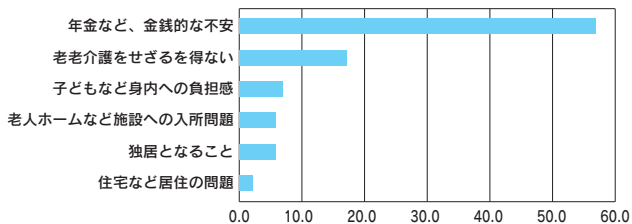
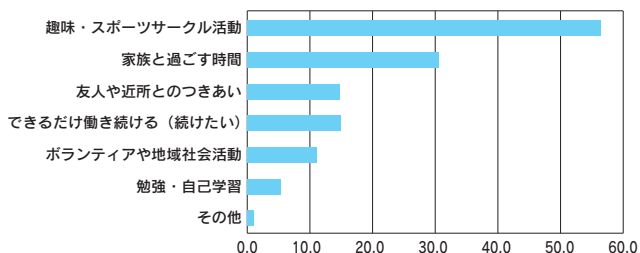


老後不安の要因は



半数以上が「年金など金銭的な不安」を抱えており年金制度などに対する不安や不満がうかがえます。

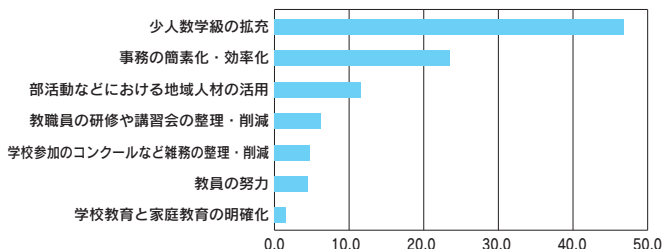
定年後の生きがいとしたいことは



半数以上の方が「趣味・スポーツサークル活動」を生きがいとして感じており、次いで、「家族と過ごす時間」を選択しています。

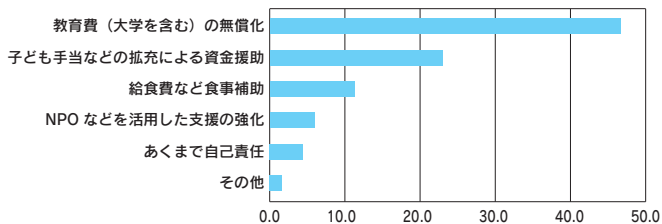
「友人や近所とのつきあい」と「できるだけ働き続ける(たい)」がほぼ同数となりました。

教職員が生徒と向き合う時間の確保策は



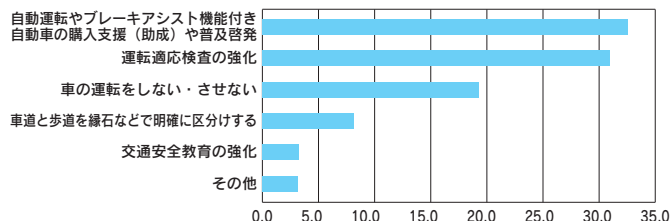
「少人数学級の拡充」が他の項目の倍近い要望となっています。また、「事務の簡素化・効率化」を求める声は2割程度あり、教職員の事務処理を心配する県民が少なからずいることがわかります。

貧困の連鎖など子どもの教育機会の確保策は



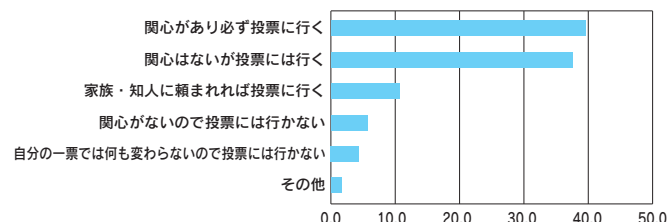
教育機会の確保は、金銭的な課題と認識されていることが明らかになりました。特に「教育費(大学を含む)の無償化」を半数近くの方が選択しています。次いで、「子ども手当などの拡充による資金援助」を求める声も2割強ありました。

高齢者の交通事故防止で有効な対策は



「自動運転やブレーキアシスト機能付き自動車購入支援や普及啓発」を求める声が多くあげられており、次いで「運転適応検査の強化」が続いています。また、「車の運転をしない・させない」は2割弱と自家用車を使用せざるを得ない本県の交通事情が浮き彫りになっています。

政治・選挙に対するあなたの想いに近いものは



自発的に「投票に行く」と回答した人は8割程度となっていますが、昨年の参院選は実際の投票率では50.51%であり、実際の投票行動に結びついていないことがうかがわれます。
※質問・設問は抜粋です。※詳細は後日、HPに掲載します。

衆議院議員 宮崎タケシのマジメひとすじ

NO.9

2017年も早くも半分が過ぎました。共謀罪法案に加え、森友学園・加計学園の疑惑など政権中枢にかかわるスキャンダルが相次いだことから、森友・加計追及の先頭に立つことになった私にとっては、まさに激動の半年間でした。

今国会では初当選以来、初めて安倍総理に直接質問する機会をいただき、3度にわたって「対決」しました。特に国会で最も注目度が高い「総理入り・テレビ入り」(総理出席でテレビ中継がある)の質疑に2度も起用していただいたことは、大きな経験となりました。



政策ネタでの質問は実はそれほど難しくありません。しかし、政府・与党から容赦ない反撃を浴びるスキャンダル追及は、向こう傷、返り血を覚悟の死闘となります。いわば「神権での決

闘」ともいえる大一番でしたが、おおむね高い評価をいただき、責任を果たせたことにほっとしています。

森友・加計問題を通じ、質だけではなく量的にも、過去に経験のない多数の質疑を重ねることになりました。普通は多くても週1回程度ですが、一時は週4回という驚異的な回数をこなし、体調に異変を感じたこともありました。

多くの若手議員が一丸となって粘り強い質疑を行った結果、安倍内閣の「お友達えこひいき」「隠蔽」「強引な政権運営」などの体質が国民の目にさらされ、東京都議選における自民党惨敗につながりました。

一方、民進党の党勢が低迷しているのも事実。安倍政権の支持率低下も、民進党の浮上にはつながっていません。旧民主党時代と同じスタイルでは期待感を取り戻せません。若手議員を中心に、徹底した党改革を進め、真に国民の信頼を得られる民進党を新たに作り上げていく所存です。
(7月7日記)